

## 2023年度

科目名称	皮膚のサイエンス
授業コード	BA347
英語名称	
学期	2023年度後期
単位	2.0
担当教員	佐野 友彦 (生命環境学部), 北原 隆 (生命環境学部), 高木 豊 (生命環境学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>生命科学科のディプロマポリシーである「生命科学・臨床工学に関する多様な問題に対して、必要な情報とデータを取得し、解析し、論理的思考と専門知識に基づいて問題解決に取り組むことができる。また、得られた成果を相手に適切に説明できる。」及び「生命科学・臨床工学に関する新たな課題を自ら見つけ、探求することができる。」資質、能力を養成することを目的にカリキュラムポリシーに定める香粧品の専門知識を習得することを目的とする講義である。</p> <p>皮膚に関する基礎的な知識を学ぶとともに、皮膚のトラブルなどの原因、対処方法などについて幅広く講義する。 消費者の悩みに対応した有効成分開発やスキンケア製品開発の実例も織り交ぜながら講義する予定</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<p>化粧品会社で実務経験を有し、皮膚科学に精通した教員、外部講師により、皮膚の基礎知識について学ぶ</p> <p>北原隆 先生 花王株式会社 主席研究員 高木豊 先生 元花王株式会社 現在 城西大学 薬学部 教授</p>
到達目標	<p>「生命科学科のディプロマポリシー及びカリキュラムポリシー（授業概要参照）に定める、生命・健康コースにおいて専門性を高めたような生命科学の問題や課題に対処する能力を養成するために必要な「香粧品系」の専門科目である。</p> <p>ディプロマポリシーに掲げる、生命科学分野の高度で実践的な知識と理解力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 皮膚の構造を学び、有効成分の作用機構を理解し、応用できる能力をつける</li> <li>2. 肌の悩みの原因 有効成分の作用機構について学び、応用できる能力をつける</li> <li>3. 現在の医薬品、化粧品の特性を客観的に理解するための情報収集、判断能力を養成する</li> </ol>
計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 講義概要説明、講義の進め方 香粧品科学との関連（佐野）</li> <li>2) 肌と皮膚の関連（佐野）</li> <li>3) 表皮の機能と構造（高木）</li> <li>4) 角層の機能（バリア/保湿能）（高木）</li> <li>5) 表皮ケラチンの構造、機能、役割（佐野）</li> <li>6) 皮膚付属器1 唇、爪、感覚器、免疫（佐野）</li> <li>7) 経皮吸収（佐野）</li> <li>8) 皮膚付属器2 皮脂腺、汗腺の機能（北原）</li> <li>9) 中間試験</li> <li>10) 角層表面について（皮脂、汗、菌）洗浄を中心として（高木）</li> <li>11) 光老化1 紫外線（佐野）</li> <li>12) 真皮（佐野）</li> <li>13) 色素細胞（北原）</li> <li>14) 光老化2（佐野）</li> <li>15) まとめ（復習）（佐野）</li> </ol> <p>授業の順番及び講師は変更になる可能性があります</p>
授業の進め方	<p>授業はスライドを用いて行う。 理解度を確認するために課題の提出、小テストを行う予定。 授業中に質問するので積極的に発言することが求められる。</p>

## 2023年度

能動的な学びの実施	ビデオなどを用いて授業を行う 授業中に質問するので積極的に発言することが求められる
授業時間外の学修	予習:事前に配布した資料、参考書の内容を読み理解しておくこと、60分 復習:講義ノート、資料の内容を十分に理解しておくこと、75分
教科書・参考書	教科書は特に定めない。 参考書 新しい皮膚化学(中山書店)
成績評価方法と基準	中間、期末試験の成績が70%以上 テスト、出席状況、学習態度、提出物、課題への回答、授業中の発表など(30%以下)を加味し、総合的に判断する。 授業への関与の度合いによっては単位を得られない場合がある。 中間試験は授業の進捗によっては行わない場合があります
課題等に対するフィードバック	授業中に解答と説明を行う
オフィスアワー	Active Campus 参照
留意事項	事前に生化学(分子生物学)を履修すること(必須) 化粧品科学を履修することが望ましい  関連講義(毒性薬理学、化粧品科学、官能評価学)の履修が望ましい
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	遠隔授業 説明資料と課題を掲示し、課題の提出を求めます。zoomによるリアルタイム授業、ビデオなどを使用したon demand授業も検討する。 遠隔授業と対面授業を併用する場合があります。  成績評価(遠隔授業) 毎回の授業の課題の提出を出席として扱う。ただし、白紙の課題またはそれに類する不十分な解答の場合は出席と認めない場合がある。 成績は課題の内容と提出状況(40%以内)、定期試験(60%以上)によって評価する 定期試験実施が困難な場合はそれに代わる課題(レポート又はzoomsを利用した試験など)での評価に変更する場合があります。 課題が5回以上未提出の場合は期末試験又はそれに変わる課題の提出資格を失う。  対面授業、遠隔授業はその時の環境によって変わる可能性があります。その場合は授業、campus squareなどで連絡します